

# 第1号議案 | 第4年度 事業報告

## 第4年度事業報告（事業別）

### 1. 子どものセルフアドボカシー支援事業

#### 【目的】

- (1) 事業運営・法人運営にかかわるあらゆる場面において、子ども・若者の参画の可能性を検討していく。
- (2) 子ども・若者が自ら集い、考え、声を発し、声を聞き合う場をつくる。

#### 【経過・実績】

- (1) 2023年12月に始まった「おなまえプロジェクト」（法人の名称を検討するため施設や里親家庭で生活している中高生）は、2024年度にまたがって会議を開催し、2024年4月、4つの名称候補を提案した。これを受けて、アドボケイトの訪問先で幅広く子どもたちから意見を募り、2024年10月、最終の会議を開催して、法人の新しい名称を「こことら」に決定した。
- (2) テーマを限定しないで語る場の設置には至らなかった。

#### 【成果】

- (1) 特定のテーマについてはあるが、社会的養護を利用している子どもたちが施設の垣根を越えて集まり、語る場を設けることができた。
- (2) プロジェクトに参加した中高生からは、プロジェクトが終わってもまた集まりたい、語りたいという声が繰り返し聞かれた。

#### 【課題】

- (1) 子どもが自分たちの暮らしについて声を聴き合い、発信するための常設の場を設置するには至らなかった。

### 2. 独立アドボケイトの養成、及びプログラム開発事業

#### 【目的】

- (1) プログラム検討会議  
子どもアドボカシー基礎講座の企画・運営、登録アドボケイトの継続研修の企画・運営のため、プログラム検討会議を実施する。
- (2) 子どもアドボカシー基礎講座  
独立アドボケイトを志す人、子どもに関わる仕事や活動に活かしたい人向けに、いつでも視聴できるオンデマンド形式の録画講座を実施する。
- (3) 登録アドボケイト継続研修

登録アドボケイトの継続研修を実施する。

(4) 独立アドボケイトの認定・登録

養成講座を実施しないため、他団体の養成プログラムを終えた方で、本法人での活動を希望される方への対応(単位互換等)を整理する。また、翌年度に向け、登録アドボケイトの登録更新を行う。

(5) その他

他団体の養成講座へ出講を通して、アドボケイト養成プログラムの普及に努める。

【経過・実績】

(1) プログラム検討会議

プログラム検討会議を10回実施。主に継続研修の企画・運営について話し合った。

(2) 子どもアドボカシー基礎講座

オンデマンド型の研修を立ち上げ、センターのWebページで受講者を募集し、80名の方が受講した。

(3) 登録アドボケイト継続研修

登録アドボケイトを対象に、継続研修を10回実施。内、8回については外部講師による研修で、社会的養護の現状理解や性被害を受けた子どもと面談するときの注意点など、学びを深めることができた。

(4) 独立アドボケイトの認定・登録

他団体の養成プログラムを終えた方が当法人での活動を希望された場合の対応について検討を進めたが、実際に希望はなかった。登録アドボケイトの更新については、2024年度当初のアドボケイト50名中42名のアドボケイトが2025年度の登録を希望された(活動の希望35名、登録はするが活動しない方7名)。遠方のため実働の可能性がない1名を除き、登録の更新を認定した。

(5) その他

安孫子、朝日、重永、岡田が、他団体の養成講座に出講し、アドボケイト養成プログラムの普及に努めた。

【成果】

- ・オンデマンド型の基礎講座を完成させた
- ・継続研修を10回実施した
- ・次年度のアドボケイト42名(実働35名)を確保した
- ・他団体の養成講座に出講した

【課題】

- ・現場のリーダーを育てる  
継続研修によって、アドボケイトの質を高めることができた。継続研修の取り組みをつづけるとともに、今後は、現場のアドボケイトのリーダー的役割を担うことができる人材を育てていきたい。

### 3. 独立アドボケイトの派遣事業（福岡市委託:子どもの権利サポート事業）

#### 【目的】

##### (1) アドボケイトの派遣

一時保護所、児童養護施設、里親家庭その他の社会的養護関係施設を定期的に訪問し、意思表出、意見形成、意見表明その他の支援を行う。

- 1) 職員・子どもへのガイダンス
- 2) 一時保護を受けている子どもへの支援（100～200回程度）
- 3) 施設・里親家庭で生活している子どもへの支援（800回程度）
- 4) スーパービジョンの実施

##### (2) 代弁及び対応促進業務

意見表明の結果や権利擁護救済機関（権利擁護等専門部会）の意見を踏まえた関係機関の対応促進のための連絡調整のほか、意見表明をした子どもへのフィードバックなど実施する。

#### 【経過・実績】

##### (1) アドボケイト養成業務

独立アドボケイトの養成・プログラム開発事業の【経過・実績】を参照。

##### (2) アドボケイトの派遣

###### 1) 職員・子どもへのガイダンス

児童養護施設（3か所）、児童心理治療施設（1か所）、障がい児入所施設（1か所）、里親家庭で子ども向けの説明会や交流会を実施したほか、児童養護施設（3か所）、児童心理治療施設、障がい児入所施設、里親家庭・里親ファミリーホームで養育者向けの説明会を実施した。乳児院（2か所）と訪問に向けた協議を行った。

###### 2) 一時保護を受けている子どもへの支援

週1回・各回2名体制で訪問を行い、訪問回数は延べ96回、面談回数は93回（面談児童数は延べ93名）、意見表明件数は52件となった。

###### 3) 施設・里親家庭で生活している子どもへの支援

児童養護施設（本園3か所）と児童心理治療施設は週1～2回・各回2～3名体制、児童養護施設（地域小規模6か所）は月2回またはリクエスト方式・各回1～2名体制、障がい児入所施設は月2～3回・各回2～3名体制、里親と自立援助ホームはリクエスト方式・各回1名体制で訪問を行い、訪問回数は延べ683回、面談回数は584回（面談児童数は延べ749名）、意見表明権数は24件となった。

###### 4) スーパービジョンの実施

2名のスーパーバイザーを配置し、グループスーパービジョンを17回（オンライン16回、対面1回）実施した。これとは別に個別スーパービジョンも行われた。

##### (2) 代弁及び対応促進業務

当センターで把握した意見表明の件数は合計76件。表明方法は、子どもが自ら意見表明を行うセルフアドボカシーが32件、同席が21件、代弁が23件となった。

#### 【成果】

- (1) 幅広い訪問先に比較的高い頻度で訪問を継続することができた。事業の開始から3年が経過し、子どもも訪問先の職員も、アドボケイトが訪ねてくることを日常として受け入れつつある。
- (2) 月2回のグループスーパービジョンは定着し、独立アドボケイトとしての活動を振り返る機会として安定した運用ができています。対面によるグループスーパーバイズも導入し、アドボケイト同士が交流を深め、集中して学ぶ機会を持つことができた。

#### 【課題】

- (1) 里親・ファミリーホームへの訪問拡大は2024年度の重点課題としていたが、ほとんど拡大には至らなかった。自立援助ホーム、障がい児入所施設への訪問が一部に限定されていること、乳児院、母子生活支援施設に訪問できていないことも課題として残った（ただし、乳児院については協議をスタートすることができた）。
- (2) 訪問回数は増え、多くの子どもたちと接点を持つことができるようになった一方、まだ面談につながっていない子どももいる。児童養護施設（特に本園）では利用が多いが、小学生が多く、中高生のアクセス向上が課題である。一時保護所についても、利用はあるものの、リクエストを出さない子とは顔を合わせる機会すらない。アクセス向上は引き続き課題である。
- (3) 独立アドボケイトに限らず、児童相談所や施設、里親、保護者なども子どもの声を聴く体制の構築は引き続き課題として大きい。訪問先との協議や、子どもたちからの発信を通じて、実行的に体制整備が進んでいく方策を見出していきたい。

## 4. 子どもアドボカシーシステムに関する調査研究及び提言事業

### (1) 子どもアドボカシーシステム研究会（全体会）

#### 【目的】

2つのワーキングチームの活動を踏まえ、総合的な視野で地域のシステムのあり方を研究する。

#### 【経過・実績】

会議を2回実施した（11月・2月）。地域・学校でのアドボカシー事業が本格的に始まって3年を迎えることを受けて、社会的養護分野も含めた横断的な課題について議論した。

#### 【課題】

会議においては各分野における課題が語られ、学ぶ機会にもなっているが、システムの構築を実現する場としてどのように機能させていくかが見通せていない。研究会が、各現場から学び、制度や運用の改善につながるように、あり方を見直す必要がある。

### (2) 社会的養護ワーキングチーム(以下、WT)

#### 【目的】

子どもの権利サポート事業の進捗状況に基づき、課題を整理するとともに社会的養護分野にお

ける子どもアドボカシーシステムのあり方を研究し、提言する。

【経過・実績】

2024年度は会議の開催がなかった。

【構成】

相澤仁 | 山梨県立大学特任教授

安孫子健輔 | 子どもアドボカシーセンター福岡 理事長

柿村優実 | 福岡市里親

宗健太郎 | 福岡市こども家庭課こども福祉係 係長

中村隆 | 社会福祉法人共栄福祉会 理事長

中村みどり | Children's Views and Voices 副代表

久本英二 | 福岡市こども総合相談センター家庭移行支援係 係長

森尾真由美 | 和白青松園

大谷順子 | 子どもアドボカシーセンター福岡 アドバイザー

朝日響 | 子どもアドボカシーセンター福岡 事務局長

新地亜紀 | 子どもアドボカシーセンター福岡 事務局

【課題】

2024年4月から改正児童福祉法に基づく権利擁護関連施策（権利擁護の環境整備、意見聴取等措置の義務化、意見表明等支援事業の創設）が施行され、社会的養護分野における権利擁護の課題は、新しい制度の運用をめぐるものにシフトしつつある。現場レベルでは解決できないシステム上の課題も山積しているが、全体会と同じく、このWTで議論すれば課題が解消していくとも限らない。WTでの議論をシステム構築に実質的につなげていくための取り組みが必要。

### (3)あらゆる子どもを対象にした（地域・学校）WT

【目的】

子どもアドボカシーシステム研究会のもと、法人とともに地域や学校におけるアドボカシー活動を行い、あらゆる子どもを対象にした子どもアドボカシーのあり方を研究し提言する。

【経過・実績】

会議：年6回

実績：活動紹介は、5.あらゆる子どもを対象にしたアドボカシー事業に譲る

【構成】大西良 | 筑紫女学園大学人間科学部人間科学科 准教授

奥村賢一 | 福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授

小野洋一朗 | 福岡市教育委員会指導部小学校教育課 第二係長

梶谷優子 | 福岡市スクールソーシャルワーカー

草場勇一 | エデュケーションエーキューブ 代表理事

河浦龍生 | 子ども家庭支援センターはぐはぐ センター長

星野智之 | 福岡市教育委員会指導部教育相談課 主任指導主事

\* 佐川民 | 弁護士・子どもアドボカシーセンター福岡 理事

\* 大谷順子 | 子どもアドボカシーセンター福岡 アドバイザー

\* 酒井咲帆 | 福祉とデザイン 代表理事 | ごしょがだに保育園 園長

\* 三宅 玲子 | チャイルドラインもしもしキモチ 専務理事

\* 朝日響 | 子どもアドボカシーセンター福岡 事務局長

\* 新地亜紀 | 子どもアドボカシーセンター福岡 事務局

(\* 実働コアメンバー)

## 5. あらゆる子どもを対象にしたアドボカシー事業

「子どもの声に耳を傾け、子どもをまもる地域・学校のしくみづくり」(日本財団助成事業名)

### 【目的】

子どもの権利ワークショップ(以下、WS)を地域・学校で実施することを通じて、子どもが子どもアドボカイトと持続的に関われる仕組みのモデルを創出する。

### 【経過・実績】

#### (1) 地域・学校 WT の活動

- 1) WT: 年間6回の会議を開催し、事業の計画、進捗内容の評価など行った。
- 2) 実働チーム: コアメンバー6名(事務局2名含む)でチームを編成。チーム会議年間20回開催。また、事業ごとに役割を担当して活動した。

#### (2) 子どもの権利 WS プログラム検討会議(年8回)

子どもの権利 WS プログラム「きかせてジャーニー」のオリジナルプログラムの内容について学校での実践を踏まえて改良を行った。また、学校側のニーズに対応できるように「きかせてジャーニー」の1 DAY プログラムバージョンを開発した。大人向けの権利啓発プログラムについては、子どもの権利及び子どもアドボカシーの基礎をベースとすることを確認し、受講者のニーズにそってカスタマイズすることになった。

#### (3) WS ファシリテータの養成

##### 1) ファシリテーター研修の実施

アドボカイトと大学生を対象として「きかせてジャーニー」に必要なスキルについて2024年6月から7月にかけて4日間研修を行った。研修内容は、以下のとおり。

<1日目>

- ① 地域学校における子どもアドボカシー活動の意義

【講師】田北雅裕さん、田中裕子さん

- ② 「きかせてジャーニー」の体験

もやもやフライトとべちゃくちヤスカイのダイジェスト版を体験

<2日目>

③ 子どもに権利を伝えるグループワーク

きもちカードに記載されている気持ちの背景にどのような権利があるのかを自分の言葉で子どもに伝えるワーク

【講師】岡田健一さん

<3日目>

④ ロールプレイ「きかせてジャーニー」

【講師】岡田健一さん

<4日目>

⑤ 発達に特性のある子どもへの対応

【講師】河浦龍生さん

2) スーパーバイズの実施

学校で実施するWSに河浦龍生さんが同行し、WS後にスーパーバイズを実施した。

(4) 「きかせてジャーニー」の実施

1) 学校関連でWSの実施

本年度は、小中学校においてクラス単位で授業時間にWSを実施した。小学校4校では3日間のオリジナルプログラムでの実施、中学校2校では1DAYプログラムでの実施となった。また、本年度は、不登校の子どもたちへのアプローチとして福岡市の教育支援センターの2つの教室でも1DAYプログラムでのWSを実施することができた。

2) 地域でのWSの実施

本年度は2か所でWSを実施した。地域での活動では子どもたちへの参加呼びかけに困難があった。その背景としては、地域の中に子どもの受け皿（居場所）が少ないことが考えられ、来年度以降の地域での活動の課題となっている。

3) 職員研修等

本年度は7つの小中学校で子どもアドボカシーについての職員研修を行った。なお、WSを実施した小中学校に対しては、WS実施前に職員研修を行うように要請していた。参加した教職員は子どもアドボカシーの関心が高い一方、実際には子どもの声を聴くことができない状況にあることが浮き彫りとなった。

保護者向け研修はWS実施のうち1校で実施することができたが、それ以外での実施は実現できなかった。WSを実施する学校では職員研修に加えて保護者研修も必要であり、第5年度はPTA等にも働きかけて保護者への啓発活動を広げていく必要がある。

なお、第5年度は、福岡市教育センターが実施する「全市人権教育研修」のプログラムの一つとして「子どもに関する人権問題」が採用され当センターが講師を務めることになっている。これにより、学校での子どもアドボカシーへの理解促進が期待される。

(5) アドボケイト訪問試行

WSを実施した小学校では3日目にプラス1という形で個別面談を実施した。個別面談の中で虐待が疑われる事案もあり、児相通告に至ったケースが7件発生した。また、WSを実施した小学校1校において、2024年11月から隔週でアドボケイトの定期訪問を実施した。WSの実施が特定の学年のみであったこともあり、定期訪問にて個別面談に至った件数は少ないが

学校でのアドボカシーの仕組みづくりに向けて大きなチャレンジとなった。他方、当初予定していた教育支援センターでのアドボカイト訪問試行は、実施できなかった。実施に向けては教職員や保護者にアドボカシーについて説明し、理解を求めていく努力を続けることが必要である。

(6) 子どもの権利に関する意識調査

福岡市教育委員会の協力の下、子ども約700名に対してWSの前後のアンケート調査を実施した。また、職員研修を実施した教職員を中心として大人約300名に対してもアンケート調査を実施した。

(7) 提言・報告書の編纂

「あらゆる子どもにアドボカシーの実現を」として提言を2025年6月に発出予定である。また、提言の根拠資料として第4年度の活動の報告書も作成する予定である。

【成果】

(1) 学校での実践により「きかせてジャーニー」の有効性が確認できたこと

小中学校でのWS「きかせてジャーニー」実施後のアンケートでは、多くの子どもたちから子どもの権利の存在や言っていたという気づきを得たことが書かれていた。WS後の個別面談で子どもたちが声を上げ、児相通告に至ったケースが7件発生したことから、これまで誰にも言えなかったことを子どもが語り出したことを示している。また、子どもがWSを通じて意見表明権を知り、セルフアドボカシーを実践する様子も見られる等、「きかせてジャーニー」の有効性が確認された。

(2) 地域・学校でのアドボカシーシステムの模索ができたこと

WS実施校において職員研修を実施したことにより、教職員に子どもの声を聴くことの重要性が再確認された。通告案件への対応をきっかけとして学校との連携、特にスクールソーシャルワーカーとの連携のあり方について協議がすすみ、今後の地域学校でのアドボカシーシステムについて模索することができた。

(3) 福岡市が子どもの権利・意見表明推進事業としてこどもアドボカシーの促進を令和7年度の新規事業に位置づけたこと

行政と協働してのWTの取り組みや議会へのロビー活動により、令和7年度の新規事業として子どもの権利・意見表明推進事業の中で子どもアドボカシーが推進が推進されている。

【課題】

(1) 地域・学校でこどもアドボカシーを担う人材の育成

今後、地域学校でのWSが広がることを見据えて、WSを担う人材を確保することが必要である。社会全体で子どもアドボカシーを支えるという視点からは、独立アドボカイトの育成だけでなく、アドボカシーの担い手を広げていくことも必要である。

(2) 地域・学校におけるアドボカシーシステムの構築

声を上げた子どもを受け止め、支援する仕組みを早急に構築する必要がある。

## 6. 子どもアドボカシーに関する普及啓発及び広報事業

### 【経過・実績】

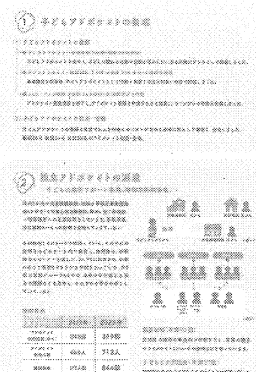
#### (1) 広報ツールの開発・普及

- ・kikasete-journey サイトで note を活用して WS レポートを開始した。
- ・基礎講座 e-learning サイトを展開。ネット決済「カラーミーショップ」で基礎講座をクラウド上で視聴可能にした。



#### (2) 年次報告書の作成

- ・アニュアルレポート完成



#### (3) 表彰・受賞など

- ・特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会 KidsDesign 賞 受賞



#### (4) 講演によるアドボカシー啓発 ※下表参照

実施日時	講演内容	主催	登壇者
7月19日(金)	子どもの権利と子どもアドボカシー (職員研修)	大池小学校	佐川 民
7月27日(土)	子どもアドボカシーについて	キャリアコン福岡交流会	安孫子 健輔
6月26日(水)	「子どもアドボカシーについて」概論的な 講演	那珂川市社会教育課	安孫子 健輔
8月6日(火)	子どもの権利と子どもアドボカシー (職員研修)	姪浜中学校	佐川 民 朝日 響
8月20日(火)	学校における子どもアドボカシー (職員研修)	深谷小学校	安孫子 健輔
8月21日(水)	子どもの権利と子どもアドボカシー (職員研修)	原西小学校	佐川 民 朝日 響
8月21日(水)	子どもの権利と子どもアドボカシー (職員研修)	堤丘小学校	佐川 民 朝日 響
8月23日(金)	子どもの権利と子どもアドボカシー (職員研修)	前原西中学校	佐川 民
8月25日(日)	子どもアドボカシー学会 第3回研究大会 2024 in 熊本 「意見表明等支援事業の進め方」	子どもアドボカシー学会	朝日 響
9月8日(日)	第40回フォーラム「新しい 絆 福岡市における子どもアドボカシーの取組 里親家庭で暮らす子どもの声をきくために	特)子どもNPOセンター福岡	安孫子 健輔 朝日 響
10月10日~11 月29日 (オンデマンド 配信)	子どもの虐待防止セミナー	北海道社会福祉協議会 社会福祉研究所	安孫子 健輔
11月1日(金)	子どもアドボカシーについて	筑後地区人権・同和教育研究協議会	安孫子 健輔
11月6日(水)	弁護士会勉強会	福岡県弁護士会	安孫子 健輔 佐川 民 朝日 響
11月7日(木)	子どもアドボカシー最前線	福岡県春日警察署少年補導員連絡会	安孫子 健輔
11月9日(土)	「子どもの権利をつかってみよう」(中学 校土曜授業)	城香中学校	安孫子 健輔
11月13日 (水)	子どもの意見表明保障と家事事件手続	日本ローエイシア友好協会家族法部 会広島支部	安孫子 健輔

11月25日 (月)	令和6年度第21回全国児童発達支援施設運営協議会(福岡大会) 第3分科会 こどもの意見表明権<こどもの意見表明権を支える取り組み>	公益財団法人日本知的障害者福祉協会、児童発達支援部会、九州地区知的障害者福祉協会 福岡県知的障がい者福祉協会	安孫子 健輔
11月30日 (土) 12月1日(日)	「こどもの権利を保障する児童相談所などのフォーマル(制度的)アドボカシーのあり方とはーこどもの声を尊重する関係機関のシステム構築や実践を展開するためにはー」 「改正児童福祉法の論点(III)」 「権利擁護と意見表明支援」	Jaspican	安孫子 健輔
12月3日(火)	子どもアドボカシーの基礎と実践	奈良市子どもセンター	安孫子 健輔
12月5日(木)	子どもアドボカシー〜こどもの声を聴く〜	大池小学校 PTA	佐川 民
1月8日(水)	子どもの権利と子どもアドボカシー(職員研修)	南片江小学校	佐川 民 朝日 響
1月18日(土)	自己探求&スキルアップセミナー ランチセッションプログラム	一般社団法人ファンプレイヤー	朝日 響
1月19日(日)	まなび応援フォーラム@オンライン	社会福祉法人カリヨン子どもセンター	安孫子 健輔
2月6日(木)	2024年度 児童相談所弁護士・児童福祉司等合同研修 【演習1】 「子どもの権利と意見校種痘措置について」の講師	公益財団法人子ども財団 西日本子ども研修センターあかし	安孫子 健輔
2月15日(土)	子どもの人権	広川町教育委員会 生涯学習課	安孫子 健輔
2月18日(水)	子どもの権利、子どもの実情など	南区地域振興課	安孫子 健輔
3月13日(木)	子どもアドボカシー、子どもの権利等について	八女市子ども家庭センター	安孫子 健輔

(5) メディア掲載関連

- ・西日本新聞こどもタイムズ連載「みんな持っているこどもの権利」(2024年5月～)  
11回掲載
- ・西日本新聞(2024年5月24日)「声をきいて」子どもアドボカシー
- ・日経グローバル 7月号 「子どもの意見表明を支援する『アドボカシー』」
- ・SOS子どもの村 newsletter  
「子どもアドボカシーセンター福岡」「子どもアドボケイトの声」
- ・堤丘小学校 学校だより 10月号 「子どもアドボカシーって?」
- ・福岡県社会福祉協議会「ふくおかのふくし」 10月号  
子どもの「最善の利益」が確保される社会に向けて
- ・日本経済新聞 2025年1月23日夕刊 子どもの声代弁「アドボカシー」始動

【成果】

- ・他自治体、他団体からのセンター事業への問い合わせや訪問・ヒヤリング希望が増えており、4年間の活動経緯や活動内容が評価され、他地域のモデルケースとして取り上げられる例もある。

【課題】

- ・事務局人材のキャパシティから、取材依頼やヒヤリング依頼にすべて対応できていない。
- ・講演依頼や研修依頼が増えており、それに対応できる人材を備える必要がある。

## 7. 組織・経済基盤の確立のために

【実績】

(1) 会計基盤強化への取組

【成果】

- ・会計事務所と業務契約し、月次の納税、給与明細作成、会計ソフトへの入力などの省力化と会計スタッフ人件費の削減につなげることができた。

【課題】

(1) 組織

- ・業務の増大に人員の確保がおいついていない。

(2) 財政基盤

- ・独自財源としての、会費、物販、事業収益が全体決算の1/3を大きく下回っており、収入源のバランスをとる必要がある。